

令和5年度 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の事業実施状況

1. 入館者状況

開館（平成15年7月）以降、令和6年3月末までの入館者数は、2,175,583人（一日平均298人）となっており、同期間の長崎原爆資料館入館者数（13,454,165人）の16.2%である。

【過去3年間の月ごとの入館者数を15ページに記載】

（参考）年度別入館者数

年 度	入館者数（1日平均）	対前年比	外国人（内数）	
			入館者数	対前年度比
令和3年度 ^(注)	60,600人（250人）	104.6%	9,575人	101.4%
令和4年度 ^(注)	95,260人（360人）	157.2%	28,197人	294.5%
令和5年度 ^(注)	118,562人（326人）	124.5%	51,693人	183.3%
累計	2,175,583人（298人）	—		

（注）令和3年度は、令和3年4月1日～27日、6月8日～8月9日、9月13日～令和4年1月20日、3月7日～3月31日の入館者数

令和4年度は、台風14号による臨時休館の9月18日～19日を除いた期間の入館者数

令和5年度は、台風6号接近に伴い8月9日15時～20時に臨時休館した時間を除く入館者数

※ 外国人入館者数とは、館内において外国語版のリーフレットを配布した人数を集計している（平成30年度から集計開始）。

2. 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開

原爆死没者を追悼し、被爆の実相を後世に伝えていくために、氏名・写真（遺影）を募集し、情報システム登録のうえ館内公開している。長崎県市をはじめ全国の原爆対策担当部署、マスコミ等を通じての周知により、遺族等から、登録を受け付ける。被爆者証言映像制作等の他事業の施行に併せて被爆者団体等への周知を強化し収集増に努めている。

（参考）年度別登録状況

年 度	登録された原爆死没者数	対前年比
令和3年度	305人	131.5%
令和4年度	334人	109.5%
令和5年度	303人	90.7%
累計	10,872人	—

3. 被爆体験記等の収集・整理・公開

被爆の実相を後世に伝えていくために、被爆手記・体験記を収集し、情報システム登録やデータ化等の整理のうえ館内のほか「グローバルネット」等で公開している。マスコミ等を通じての周知、募集により、本人や遺族等から寄贈を受けるとともに、高齢等で執筆困難な場合は執筆補助を行なう。被爆者証言映像制作等の他事業の施行に併せて被爆者団体等への周知を強化し収集増に努めている。

(参考) 年度別被爆体験記収集状況

年 度	体験記収集	対前年比
令和3年度	36 人分	75.0%
令和4年度	69 人分	191.7%
令和5年度	79 人分	114.5%
累 計	665 人分	—

4. 企画展の開催

テーマを定め、祈念館が所蔵する被爆体験記等を選定し、英語に翻訳を行い、広い空間でゆっくりと閲覧できるように交流ラウンジにて実施した。

第13回体験記企画展「LIFE AFTER NUCLEAR WAR」

期間：令和5年10月22日～令和5年11月1日

令和5年11月7日～令和5年11月18日

概要：スーザン・サザード氏の著書

「ナガサキ 核戦争後の人生」で描かれた被爆者5人の被爆体験やその後の人生に焦点をあてた展示を行った。

あわせて、5人の被爆体験を語る様子を収めた証言ビデオも上映した。



企画展の様子（交流ラウンジ）

5. 被爆体験記執筆補助

体験記を残す意欲を持ちながらその執筆が困難な被爆者を対象として聞き取りと代筆を行った。（平成17年度開始）

令和4年度に引き続き、長崎県と長崎市の協力を得て、長崎県内の被爆者へ直接協力をよびかけた。今後も自治体などと協力し、収集に努めていきたい。

(参考) 年度別収集状況

年 度	収集数
令和3年度	21 人
令和4年度	64 人
令和5年度	26 人
累 計 (平成17年度から)	192 人



執筆補助の様子 (祈念館内)

6. 被爆者証言ビデオ制作

被爆の実相を後世に伝えていくために、地元放送局等に業務委託して、被爆体験に係る証言ビデオを制作・収集し、情報システム登録のうえ館内のほか「グローバルネット」等で公開している。被爆者団体等の協力・紹介を得て、制作・収集の増に努めている。

(参考) 年度別制作・収集状況

(1) 国内

年 度	収録数	収録都道府県
令和3年度	7 人	東京 (1 人)、福岡 (1 人)、長崎 (5 人)
令和4年度	22 人	東京 (3 人)、神奈川 (3 人)、愛知 (1 人)、大阪 (2 人)、福岡 (3 人)、長崎 (10 人)
令和5年度	22 人	福岡 (1 人)、青森 (3 人)、神奈川 (1 人)、愛知 (2 人)、東京 (3 人)、熊本 (3 人)、埼玉 (4 人)、長崎 (5 人)
累計	465 人	

(2) 海外

年 度	収録数	収録都道府県
令和3年度	3 人	アメリカ (1 人)、ブラジル (2 人)
令和4年度	2 人	アメリカ (1 人)、ブラジル (1 人)
令和5年度	3 人	韓国 (2 人)、ブラジル (1 人)
累計	79 人	

7. 多言語化対応事業

当館外国語ネイティブスタッフにより、英語、韓国・朝鮮語、中国語を中心に被爆体験記、証言ビデオ等収集資料の翻訳や吹替えを行い、簡易製本化や情報システムへの登録のうえ、館内での公開のほか、「グローバルネット」等で広く世界に発信・紹介している。

(参考) 年度別翻訳状況【体験記】

年度	翻訳数 (編)				
	英語	韓国・朝鮮語	中国語	その他	合計
令和3年度	4	4	4	0	12
令和4年度	7	23	23	0	53
令和5年度	7	12	15	0	34
累計	187	208	211	44	650

※「その他」フランス語7編、ドイツ語4編、イタリア語3編、スペイン語5編、ポルトガル語3編、ロシア語6編、ベンガル語1編、カザフ語1編、マレー語2編、アラビア語2編、ベトナム語3編、ハンガリー語2編、モンテネグロ語2編、オランダ語2編、ヒンドゥ語1編

【被爆者証言ビデオ】 ※ () 内数は字幕数

年度	翻訳吹替え・字幕数 (編)				
	英語	韓国・朝鮮語	中国語	その他	合計
令和3年度	3(3)	3(3)	3(3)	0	9(9)
令和4年度	0	0	0	0	0
令和5年度	5(5)	5(5)	5(5)	0	15(15)
累計	61(29)	61(29)	61(29)	36(18)	219(105)

※「その他」オランダ語5編、ロシア語8編、フランス語8編、ドイツ語8編、アラビア語3編、ベトナム語2編、ポルトガル語2編

令和4年度は過去の証言ビデオの見直しを行い、英語3編、中国語21編、韓国語22編の字幕を修正した。

8. 被爆体験記の朗読事業

被爆者が高齢化し、被爆者の声を直接聴くことが難しくなっていく中、被爆体験を継承していくあらたな方策の一つとして平成23年度から事業を開始した。収集した体験記を有効に活用していくという側面を有し、朗読ボランティア育成と朗読ボランティアの派遣を柱とする。平成24年度と平成25年度の2年間で朗読ボランティア育成講座を実施・完了した。講座修了者のボランティア登録を受け、平成26年度から祈念館内での定期朗読会の開催、市内・近隣の小中学校等への派遣朗読会の実施等、本格的に活動を行い、さらに朗読ボランティア「永遠の会」を結成し、平成27年度は「永遠の会」を組織化。世話人会を結成し、代表、副代表を選出。事務局と連携しながら、自主的な運営のもと活動を広げている。平成30年度には、第2期生育成講座を実施・完了した。

令和5年度は館内での常駐朗読は、地下1階追悼コーナーで、「9日を忘れない」朗読会は原爆資料館いこいの広場で開催した。また、追悼平和祈念館開館20周年を記念し、

長崎県音楽連盟協力のもと、「朗読と音楽の調べ」と題し、12月から3月まで3回にわたって開催した。

また、令和5年度は市内の小学校2校、中学校1校に朗読指導を行うとともに、若者の参画のために令和4年度より募集しているU-25によるMC、朗読も開始した。

(参考) 年度別開催状況【メンバー構成(令和6年3月末) 68人(女性61人、男性7人) ※U-25含む】

年 度	常駐朗読	定期朗読会 (9日を忘れない)	国内朗読派遣	その他(朗読劇など)
令和3年度	48日	5回(5回)	31回(学校・団体他)	2回(意見交換会)
令和4年度	89日	14回(12回)	36回(学校・団体他)	4校(朗読指導)
令和5年度	115日	14回(11回)	53回(学校・団体他)	3校(朗読指導)

〈活動の様子〉



常駐朗読
(3/9 追悼コーナー)



朗読会「9日を忘れない」
(12/9 原爆資料館いこいの広場)



「朗読と音楽の調べ」
(2/3 交流ラウンジ)

9. 家族・交流証言者等の派遣

被爆の実相、平和への想いを次世代に語り継ぐため、平成30年度から「家族・交流証言者」及び「被爆体験記朗読ボランティア」を全国の学校等へ無料で派遣し、家族・交流証言講話及び被爆体験記朗読会を開催した。また、令和5年度からは、東京都国立市が養成した「原爆体験伝承者」の派遣も開始した。国内外の数多くの児童、生徒、一般市民が聴講した。

令和5年度は、5月にコロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「5類感染症」に変更されたため派遣件数が増加した。

(参考) 年度別実施状況【長崎市外派遣】

年度	全件数	長崎市外				
		家族・交流	朗読会	体験講話	国立市	聴講者数
令和3年度	94件	57件	25件	12件		21,611人
令和4年度	145件	100件	23件	22件		22,412人
令和5年度	173件	105件	37件	22件	9件	28,919人
累計(H30年度～)	747件	471件	210件	57件	9件	137,433人

〈派遣の様子〉



家族・交流証言講話
(8/4 大分県九重町立飯田小学校)



被爆体験記朗読会
(8/29 福知山市人権推進室)



被爆体験講話
(7/19 茨城県神栖市立波崎第二中学校)



原爆体験伝承講話
(6/9 東京都日野市立日野第一小学校)

【海外派遣】

年 度	場 所	期 間	件 数	聴講者数
令和3年度	スペイン日本人学校 (オンライン講話)	2月17日	1件 ※被爆体験講話 1件	41人
令和4年度	実施無し			
令和5年度	アメリカ	11/8～11/17	7件 ※被爆体験講話 7件	445人
累計			23件	765人

10. 家族・交流証言者等に対する語学等の研修

来日外国人に対して、また国外においても講話や朗読が行えるようスキルアップを図るため、被爆体験の家族・交流証言者及び被爆体験記朗読ボランティアについて、語学等の研修を実施した。令和3年度、令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインによる研修及び少人数での対面による研修を実施したが、令和5年度は対面によるブラッシュアップ研修を実施した。

(参考) 家族・交流証言者語学育成研修 ※対面によるマンツーマン指導

- ・受講者 7人
- ・実施内容 令和6年2月～令和6年3月 毎週1回 計4回実施
- ・終了後は英語講話を実施 令和6年3月25日、29日

被爆体験記朗読ボランティア語学育成研修

【初級者向けブラッシュアップレッスン】

※少人数グループによる朗読指導

- ・受講者 12人
- ・実施内容 令和6年2月～令和6年3月 週1回 計8回実施

11. 修学講習（被爆体験講話）の実施

原爆の被害の実相を広く国の内外に伝え、永く後代まで語り継ぐという当館の理念を

実現するため、修学旅行生などの団体に会場として「研究室」を提供し、平和学習のために被爆体験講話を実施している。

(参考) 年度別実施状況

年度	回数	利用者数
令和3年度	81回	2,680人
令和4年度	157回	3,969人
令和5年度	96回	2,281人
累計(平成20年度から)	1,947回	50,201人

※ 会場収容人数は最大40人。講話前後には追悼空間での平和集会を実施する学校も増えている。

12. 情報展示システムの保守・管理

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性を確保するため、情報展示システムの保守・管理を行った。

また、令和5年7月にシステム機器の更改を実施し、被爆者・遺族などの当事者世代の高齢化や来館者の多様化により起因する情報提供のあり方の変化に対応したより利用者視点に立った展示の見直し、併せて、新ハードウェア構成での現システムへの影響などを考慮し、より活用しやすいシステムへの改修を行った。

さらに、開館20周年の取り組みのひとつとして、来館者からの要望を受け、追悼空間前室にて死没者検索ができるように改修を行った。

13. 被ばく医療関連情報の収集・整理・提供

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科(原爆後障害医療研究所国際保健医療福祉学研究分野)の協力のもと、世界の放射線事故情報、放射線Q&A等を含めた被ばく医療情報を館内や「グローバルネット」で広く提供するほか、館内の交流ラウンジにおいて、被爆者を対象とした健康講話(被ばく医療研究の成果として、高齢となる被爆者の健康維持に資する情報を親しみやすいテーマにして提供する「被爆者健康講話」)を行っている。平成24年度からは、館内での講話に加え、長崎県、五島市の協力を得て、多くの被爆者がいる長崎県内離島部(五島市)とインターネットで結んで講話を中継する取り組みを実施し、多数の参加を得ていたが、令和2年度より五島会場からの中継は廃止した。

令和2年度及び令和3年度はコロナ禍で実施を中止したが、令和4年度は、8月より対面とオンラインによるハイブリッド形式での講話を再開し、令和5年度は従来通り6月より対面で実施した。録画した講話の様子は祈念館ホームページに掲載した。

(参考) 年度別実施状況 【被爆者健康講話】

年度	回数	利用者数		
		長崎会場	五島会場	合計
令和3年度	6回	—	—	—
令和4年度	7回	232人	—	232人
令和5年度	10回	287人	—	287人
累計（H20年度開始）	146回	4,578人	1,218人	5,796人

※令和3年度は、対面での実施が無いため、利用者数はカウントできず。

(講師が大学内で録画したものを祈念館ホームページに掲載)

14. 平和関連情報の収集・整理・提供

来館者に「平和へのメッセージ」を作成していただき祈念館で保存・公開する。メッセージは祈念館で長期保存され、いつでも館内で閲覧ができる。館内のタブレット端末や用意されたカードに自由に記入するものと、画用紙などに記入して祈念館に持参するものがある。

令和 5 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止していた自筆式のカード記入を5月12日より再開した。

(参考) 実績 ※タブレット端末・カードの合計数

年 度	収集登録数
令和3年度	814 件
令和4年度	2,162 件
令和5年度	3,436 件
累計	95,608 件



タブレット端末でのメッセージ入力
(情報コーナー2)

15. 海外原爆展の開催

「原爆の惨禍に関する全世界の人々の理解を深め、その体験を後代に継承するための施設」としての祈念館の位置づけ、特に長崎祈念館の「国際協力及び交流」機能に鑑み、被爆の実相を広く世界に伝えるため、被爆 60 周年という節目の年にあたる平成 17 年度から実施している。

広島・長崎の両市が主催してイギリスで実施したヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展に、当館で製作した被爆体験記集（英語）350 冊を提供した。

令和 5 年度は 4 月 1 日から 4 月 28 日まで米国ハワイ大学マノア校、12 月 15 日から令和 6 年 2 月 1 日までジョージア（旧グルジア）のイリア国立大学（トビリシ市）、2 月 4 日から 2 月 18 日バトゥミ国立大学（バトゥミ市）、2 月 27 日から 3 月 31 日までシグナギ国立博物館（シグナギ市）で実施した。トビリシ市およびシグナギ市での開会式に職員が出席した。なお、被爆体験講話については、令和 5 年 12 月 15 日と令和 6 年 2 月 27 日にオンラインで実施した。



展示会場の様子



被爆体験講話(オンライン)

(参考) 年度別開催状況

年 度	会 場	場 所	期 間	来場者数
令和 3 年度	シーボルト博物館	ヴュルツブルク市 (ドイツ)	10 月 1 日 ～11 月 28 日	350 人
令和 4 年度	ハワイ大学マノア校 ハミルトン図書館	ホノルル市 (米国)	3 月 1 日～3 月 31 日	2,254 人
令和 5 年度	ハワイ大学マノア校 ハミルトン図書館	ホノルル市 (米国)	4 月 1 日～4 月 28 日	3,154 人
	イリア国立大学	トビリシ市 (ジョージア)	令和 5 年 12 月 15 日 ～令和 6 年 2 月 1 日	4,000 人
	バトゥミ国立大学	バトゥミ市 (ジョージア)	令和 6 年 2 月 4 日 ～2 月 18 日	200 人
	シグナギ国立博物館	シグナギ市 (ジョージア)	令和 6 年 2 月 27 日 ～3 月 31 日	998 人

※これまでの開催実績 【開催国・都市数】14 か国・27 都市

アメリカ 5 都市、スペイン 1 都市、ベルギー1 都市、マレーシア 1 都市、オランダ 2 都市、トルコ 2 都市、ロシア 1 都市、アイスランド 2 都市、ニュージーランド 2 都市、カザフスタン 3 都市、ドイツ 2 都市、ベトナム 1 都市、ポルトガル 1 都市、ジョージア 3 都市【延べ来場者数】(131,487 人)

16. 外国語講座の開催

国際交流事業の一環として、祈念館や被爆建造物等の外国語による案内や平和関連国際会議等において通訳の出来るボランティアを育成するため、毎年、英語、韓国語、中国語の各講座を実施している。専門的・実践的な知識の習得に力を入れており、より高度なレベルでの対応ができるよう、実際にガイドを希望するガイド登録者を対象とした少人数制とし育成を行った。

令和 5 年度は 6 月～10 月にオンライン及び対面の両方で開催した。また、11 月、12 月に実際に祈念館のガイドを実践した。

(参考) 年度別開催状況

年度	開催講座 () : クラス数	受講者 (修了者) 数
令和 3 年度	英語 (1)、韓国語 (2)、中国語 (2)	27 人
令和 4 年度	英語 (1)、韓国語 (1)、中国語 (1)	22 人
令和 5 年度	英語 (1)、韓国語 (1)、中国語 (1)	20 人

※ 令和 5 年度修了者内訳 英語 8 人 (前年比-3)、
韓国語 7 人 (前年比+3)、中国語 5 人 (前年比-2)



祈念館の追悼空間でのフィールドワークの様子

17. インターネット会議システムによる平和学習・交流

祈念館への訪問が難しい遠隔地の児童・生徒に向けて、被爆の実相を伝えることにより平和を希求する心を育むことを目的に、インターネットによる会議システムを利用して、祈念館と現地をつなぎ被爆体験講話を中心とした平和学習を実施している。

現在、被爆者が直接出向くことなく現地に居ながらにして遠隔地と交流ができる特性を活用して、祈念館と海外の学校や自治体等との海外ピースネットも実施している。

(参考) 年度別実施状況 ※ () 内数は海外との数

年 度	回 数	利用団体数
令和3年度	55(5)回	57 団体
令和4年度	40(3)回	41 団体
令和5年度	27(4)回	25 団体
累計 (平成16年度から)	539(53)回	468 団体

〈ピースネットの様子〉



2023.8.29 カザフスタン・ジャパンセンター



2024.3.1 大日向小学校

18. 国際協力・交流プログラムの実施

平成22年度から、アジアの若者による平和ネットワークの構築・拡大を目指し、マレーシア、韓国、中国等から教官、学生を毎年2月頃に長崎に招いて、「アジアの若者によるネットワーク構築プログラム」APN (The Asian Youth Peace Network Program) 事業を実施してきた。令和4年度からは対象国を拡大し、「若者による平和ネットワーク構築プログラムNPN(Nagasaki Youth Peace Network Symposium)」と改称した。令和5年度は、「Youth Conference in Nagasaki」と題し、若者による平和への取り組みを学ぶ会議を3日間に渡って開催し、この会議への参加をメインとしたNPNプログラムを実施した。

(参考) 年度別実施状況

年度	国名/招聘	期間
令和3年度	海外からの招聘無し (オンライン)	2月25日～2月26日
令和4年度	米国6人、マレーシア7人	2月18日～2月19日
令和5年度	米国2人、マレーシア7人、韓国6人	2月12日～2月17日
累 計 (平成22年度～)	マレーシア86人、韓国68人、 インドネシア1人、中国人24人、 米国8人、(計 187人)	

※令和5年度参加者数：

海外からの招聘者15人・国内大学からの参加者11人 (うち3人は留学生)

計26人



被爆者による被爆体験講話の様子

19. 国際平和映画祭の開催

映画を通じて平和の大切さや被爆の継承について考える契機とするため、原爆や平和をテーマにした映画を上映している。(平成 22 年度開始)

令和 5 年度は事前の申込制とし、学童クラブに呼びかけるなど夏休みに子供を対象として集客を図り実施した。3 作品を上映したほか、平和かみしばいの上演や恐竜ポストカード作りのワークショップなどを催した。

(参考) 年度別開催状況

年 度	上映映画数	期 間	来場者数	備考
令和 3 年度	3 作品	12 月 19 日	144 人	
令和 4 年度	3 作品	11 月 6 日	368 人	
令和 5 年度	3 作品	8 月 18～19 日	1,106 人	
累計	85 作品	—	15,873 人	

※上映作品 (令和 5 年度)

【映画】「おまえうまそうだな」「えっちゃんのせんそう」「ブレッドウィナー」



映画祭会場の様子



サイドイベント 平和かみしばいの様子

20. 「被爆の実相の伝承」のオンライン化・デジタル化事業の実施

令和 3 年度から、長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA) に委託して、祈念館が収

蔵する被爆者の体験記や原爆資料館が収蔵する写真などをデジタル化し、学生向けの教材としてインターネットで国内外の大学に提供するなど、若い世代への被爆の実相を伝える取り組みを実施した。

令和 5 年度は、「被爆前の長崎」の写真を活用した平和教育教材を 3 本制作した。また、令和 4 年度に制作した被爆前後の様子を比較しながら見ることができる航空写真マップ「航空写真アーカイブ」を拡充し、広島版の追加や、浦上エリアを中心に被爆前後のステール写真をアーカイブ状に配置した。これらアーカイブを活用したフィールドワークを夏休みの学生を対象に実施し、高評価を得た。また、「広島・長崎講座」での教育実践としてアーカイブを活用して「被爆前の日常」にフォーカスを当てた授業を合計約 700 名の生徒に対して実施した。

その他、令和 4 年度に開設したホームページ「被爆前の日常アーカイブ」の英語版サイトを開設した。

21. その他（館内利用）

学校関係者、旅行代理店に対し、平和集会や献花式での「追悼空間」の利用を促しているが、令和 5 年度は感染症対策を行いながら、コロナ禍の際は中止していた職員による対面での説明、参加者による合唱・平和への誓いなどの実施を再開した。

（参考）実績 【追悼空間利用】※平成 19 年度から統計開始。

年 度	件 数（学校数）	利用者数
令和 3 年度	309 件	16,644 人
令和 4 年度	384 件	23,161 人
令和 5 年度	397 件	23,037 人
累計（平成 19 年度～）	3,104 件	176,899 人

22. 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取り組み

令和 5 年 5 月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「5 類感染症」に変更されたことから、次の対応に変更した。

変更前	変更後
・ 入口から地下 2 階は一方通行の動線とした。 ・ 館内配布物を撤去（祈念館リーフレットのみ配布）した。 ・ 折鶴コーナー、平和へのメッセージカード記入等、不特定多数が触るものの撤去	・ 入口から地下 2 階の一方通行を解除した。 ・ 館内配布物（チラシ）等を陳列した。 ・ 折鶴コーナー、平和へのメッセージカード記入等、再開した。

23. 長崎祈念館開館20周年の取り組み

①スーザン・サザード氏記念講演会・企画展

アメリカのノンフィクション作家で「ナガサキ～核戦争後の人生」の著者であるスーザン・サザード氏が、同著にも描かれている被爆者の5人の「長い戦後」について、「被爆体験を語り継ぐ永遠の会」による朗読や交流秘話を交えて講演を行った。

企画展の詳細については、「4. 企画展の開催」(P2)の項参照。

②追悼空間前室内祈念館情報システム機器更改

詳細については、「12. 情報展示システムの保守・管理」(P7)の項参照。

③朗読会「朗読と音楽の調べ」開催

詳細については、「8. 被爆体験記の朗読事業」(P4-5)の項参照。

④映像上映展「映像が語る 原爆の記憶」の開催

NBC 長崎放送所蔵の原爆をテーマとした至宝映像6作品を1月20日から27日まで、毎日上映した。(※1月20日はオープニングトークイベント開催のため、2作品のみ上映)

⑤平和学習ノートブックの作成

開館20周年を機に、子どもたちが祈念館の趣旨を理解し、楽しみながら見学することができるようクイズ形式の「平和学習ノートブック」を作成。キャラクター原案やクイズの内容等は職員が考案。

令和6年度4月より館内に設置するほか、長崎県・市内の祈念館見学希望の学校に配布している。

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の入館者数について（原爆資料館比較）

令和3年度

区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比	資料館 対前年度比
R3 4月	3,298	13,835	23.8%	—	1250.9%
5月		189	—	—	—
6月	3,351	7,050	47.5%	366.2%	179.3%
7月	6,237	17,892	34.9%	195.3%	211.5%
8月	2,389	7,704	31.0%	45.0%	45.1%
9月	2,182	6,208	35.1%	47.6%	27.4%
10月	11,309	62,837	18.0%	113.7%	112.1%
11月	14,423	91,619	15.7%	92.8%	142.0%
12月	10,038	60,461	16.6%	108.7%	179.6%
R4 1月	2,994	14,342	20.9%	197.1%	337.5%
2月		2,602	—	—	54.3%
3月	4,379	25,427	17.2%	72.2%	128.5%
合 計	60,600	310,166	19.5%	104.6%	131.3%
累 計	1,961,761	12,071,179	16.3%	—	—

祈念館臨時休館日：R3.4/28～6/7、8/10～9/12、R4.1/21～3/6

資料館臨時休館日：R3.4.28～5/31、8/10～9/12、R4.1/23～2/20

令和4年度

区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比	資料館 対前年度比
R4 4月	4,818	29,371	16.4%	146.1%	—
5月	8,931	64,311	13.9%	—	—
6月	7,871	50,022	15.7%	234.9%	—
7月	6,878	29,443	23.4%	110.3%	—
8月	7,684	41,518	18.5%	321.6%	—
9月	6,770	47,197	14.3%	310.3%	—
10月	13,938	92,594	15.1%	123.2%	—
11月	12,850	98,993	13.0%	89.1%	—
12月	7,254	59,133	12.3%	72.3%	—
R5 1月	5,287	28,572	18.5%	176.6%	—
2月	5,791	34,054	17.0%	—	—
3月	7,188	49,025	14.7%	164.1%	—
合 計	95,260	624,233	15.3%	157.2%	—
累 計	2,057,021	12,695,412	16.2%	—	—

祈念館臨時休館日：R4.9/18～9/19台風14号による

資料館臨時休館日：R4.9/18～9/19台風14号による

令和5年度

区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比	資料館 対前年度比
R5 4月	6,728	48,915	13.8%	139.6%	166.5%
5月	12,034	103,749	11.6%	134.7%	161.3%
6月	11,944	62,641	19.1%	151.7%	125.2%
7月	7,984	39,539	20.2%	116.1%	134.3%
8月	10,001	57,791	17.3%	130.2%	139.2%
9月	8,912	56,972	15.6%	131.6%	120.7%
10月	15,500	107,478	14.4%	111.2%	116.1%
11月	15,704	105,214	14.9%	122.2%	106.3%
12月	7,935	47,974	16.5%	109.4%	81.1%
R6 1月	6,053	28,977	20.9%	114.5%	101.4%
2月	7,237	39,047	18.5%	125.0%	114.7%
3月	8,530	60,456	14.1%	118.7%	123.3%
合 計	118,562	758,753	15.6%	124.5%	121.5%
累 計	2,175,583	13,454,165	16.2%	—	—

祈念館：台風6号のため15時閉館

資料館：台風6号のため15時閉館